

LS24

受験番号

2012 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験 刑法・刑事訴訟法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページまでである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は刑法と刑事訴訟法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 刑法

設例を読み、設問に答えよ。

【設例】

母親X（43才）は、病気になり生活費に窮したことから、中学生1年の息子Y（13歳）に対して、「夜道を1人で歩いている女性を狙ってバッグをひったくって来い」と命じた。Yは、最初嫌がったが、Xがかawaiiそうになり、犯行を承知した。

Yは、Xに言われた通り、夜間、帰宅途中のA子（40歳）を見つけ、他に人通りのないのを確かめた上で、A子が腕に通して提げていたハンドバッグの持ち手部分を片手で掴んで引っ張り、これをひったくろうとしたが、A子が持ち手部分を握りしめて離さず、これを取られまいとしてYと一緒に約20メートルほど、Yに引っ張られながら走り続けたため、Yは両手でバッグの持ち手を掴んで一層強く引っ張ってA子を転倒させ、A子の手がバッグの持ち手から自然に離れた恰好になると共にA子は足を捻挫して一時起き上がれない状態となったすきに、Yはバッグの中から財布を持ちだして逃げた。

Yは家に帰ると、XにA子の財布を渡した。

【設問】 Xの罪責について論ぜよ。

専門論文試験 刑事訴訟法

次の項目、用語などについて、簡潔に説明せよ（なお、判例を前提にする）。

- (1) 警察官職務執行法2条1項に基づく職務質問に伴う「所持品検査」について。
- (2) 「通常逮捕」を行なうのに必要な手続の流れについて。
- (3) 検察官の起訴、不起訴それぞれの判断を抑制・是正する方法や制度について。
- (4) 公判前整理手続の概要について。
- (5) 「違法収集証拠排除法則」について。